

トピックス

ISO/TC269の議長に
鉄道総研の西江勇二が選出されました

ISO (国際標準化機構) /TC269 (鉄道分野専門委員会) の議長に鉄道総研情報管理部長 西江勇二が選出され、第1回総会が、ドイツ・ベルリン市にあるドイツ規格協会本部で平成24年10月30日・31日の2日間にわたり開催されました。総会には、日本のほか、ドイツ、フランス、イギリス、ポルトガル、スウェーデン、オランダ、チェコ、ロシア、中国、南アフリカ、および韓国から総勢55名の参加者がありました。

このISO/TC269は、IEC (国際電気標準会議) /TC9 (鉄道用電気設備とシステム専門委員会) の担当範囲を除く鉄道全般の国際規格を審議する専門委員会として、平成24年4月に設置が、また、平成24年7月には議長についてもISOの上層委員会である技術管理評議会で認められていました。

今回の総会は、主催者および議長の挨拶により始まり、委員会の名称と業務範囲が正式に合意されたほか、今後の委員会活動に関する議論が行われました。また、次回総会の開催地として東京が選ばれ、平成25年11月に開催の予定となりました。

このISO/TC269では、日本が議長職に就いたことで、

委員会の運営面において中心的役割を担うことになりましたが、業務範囲の広いこの専門委員会では、規格開発審議の場において、今後、多くの日本の鉄道技術者の方々の積極的な参加が期待されるところです。

鉄道総研では、このISO/TC269の国内審議団体を引き受け、鉄道国際規格センターが担当しています。これにより、鉄道技術に関する国際標準化活動を一元的に行う体制となり、IECに加えてISOにおいても鉄道の技術全般に関する国際標準化活動に一層の力を注いでいくことになりました。



ISO/TC269第1回総会にて挨拶をする西江勇二議長

トピックス

「アジア鉄道技術研究フォーラム」を開催しました

平成24年10月25日、アジアの3鉄道事業者を迎え、「アジア鉄道技術研究フォーラム」を開催しました。

このフォーラムは、今後の鉄道ネットワークの発展が期待されるアジア諸国との鉄道技術の研究開発という観点での交流の方向性を探ることを目的に開催したものです。今回のフォーラムでは、台湾鉄道管理局、タイ国鉄およびベトナム国鉄の3鉄道事業者7名をお迎えしました。

参加した各事業者には、それぞれが抱えている技術的な課題と、それを踏まえた鉄道総研への期待などについてお話しいただき、その後、鉄道総研の研究者とディスカッションを行うという形で進行了。鉄道総研としては、各事業者が置かれている地域的な条件とそこで発生している具体的な課題を知ることにより、必要とされている技術やそれについての研究開発要素について認識し、今後の交流の方向を検討する材料とすることができ、参加事業者においては、鉄道総研が得意とする研究開発分野や技術的ポテンシャルを知っていただく機会となりました。

今回のフォーラムでは、台湾鉄道管理局から3件、タイ国鉄から3件、ベトナム国鉄から5件の合計11件の話題提供を行っていただき、電力、運輸、車両および施設の4分野に分けてディスカッションを行いました。

鉄道総研としては、今回の経験も踏まえ、今後とも研究開発を行う組織としてアジア諸国との交流を深められるよう活動していきたいと考えています。



ディスカッションの様子